



2018レオパレス21ミャンマーOP 第2ラウンド戦評

ミャンマー/ヤンゴン郊外のパンラインゴルフクラブで今年のレオパレス21ミャンマーオープンの第2ラウンドが繰り広げられた。

この日148名のプレーヤーにより行われた第2ラウンドはなかなか思うように上位のスコアが伸びない展開が続いた。

そんな中、午前スタートでトップに立ったのは、米国のP・ピーターソン。

3アンダーでスタートしたピーターソンはこの日7バーディ2ボギーで回り、トウディ5アンダーをマーク。トータル8アンダーとし昨日の7位から一躍トップに躍り出た。

昨日首位だったタイのR・ワナスリチャンも午後スタートから、スコアを2つ伸ばし、同じく8アンダーとし、2日目を終えてこの2人が首位タイに並んだ。

一方の日本勢では1打差の7アンダー3位タイに川村昌弘、さらに1打差の6アンダー6位タイに宮里優作が上位を追いかけるといった展開に。

「3-4mのパットが思うように入らない。」と嘆く川村だったが、「ショットは上向き。最終日までこの位置で上位を狙いたいですね。」と控えめながらも虎視眈々と上位を見据えていた。

昨年悔しい思いをして、「雪辱を果たしたい。」と語るのは宮里優作。

「昨年は自滅だったんで、今年はまだ1回優勝争いをしたい。」と意気込みを語りつつも「チャンスホールと守るホールがはっきりしている。そこをいかに割り切れるか。」と冷静に明日のプレーを分析していた。

ホストプロの今平周吾は4アンダーで楽々の予選通過を果たした。

2日目を終えてイーブンパー51位タイまでの66名が明日からの決勝ラウンドに駒を進めた。

注目の石川遼はトータル1オーバーで惜しくも予選通過はならなかった。

いよいよ明日から始まる決勝ラウンド。

闘いの鍵を握るムービングサタデーを乗り切って首位に立つのは誰になるのか？

明日も熱戦が期待される。

